

福祉学習

福祉学習は2/8に行うフィールドワークに向けて動きだしています。まずはしっかりと知識を身につけること。昨日は視覚障害について学びを深めました。

視覚を制限した中での体験は難しさを感じた部分があったと思います。普段から視覚を使って活動をしているのですから、はじめて行ったことがうまくいかないのは当然です。

それでも意外と上手にいった！という人もいるのではないのでしょうか？成功した要因は何だったでしょう？触覚を研ぎ澄ましたから？これまでの経験があったから？



今回の授業で気づいたほしかったことの一つは「**見えない=何もできない=周りがなんでも手伝ってあげないといけない**」ではないということです。

授業の中では「メガネ」の例を挙げましたが、今の世の中には見えにくい方々を支援する工夫や道具がたくさんあります。



一番左の写真は**ルーペ**。比較的シンプルで理科の授業などでも使いそうですね。その隣の写真は**電子ルーペ**。カメラで投影した画像をディスプレイに拡大します。**スマホ**にも拡大機能がついていたり、音声読み上げ機能がついていたりすることは知っているかな？さまざまなアプリも作られています。

そして一番右は一見するとサングラスのようですが、**網膜走査型レーザーアイウェア RETISSA** といって、カメラに映った映像を網膜に直接投影することで見えるようにする眼鏡型の端末なんだから。道具も進歩しています。

目が不自由でも社会の中でいきいきと暮らしていくために、このような道具が開発されています。 そんな道具のことや世の中にある工夫も、**マジョリティ特権を持つ側にいると気が付きにくい** ものですよね。



信号でのピヨピヨ、カッコーという音や、駅などのトイレで「ここにトイレがあります。向かって右側が男子トイレ、左側が女子トイレです」といった音声流れているのを聞いたことがある人もいでしょう。一番右は見慣れないと思いますが、水を注いだ量を把握するために使う道具で、タイマーもついているのでカップ麺などを作る時に便利な道具だそうです。

目が不自由だからといって何もできないわけではありません。なんでもかんでも「**やってあげる/助けてあげる**」ことばかりを考えるのではなくて、**どんな工夫をしてどんな配慮が必要なのか**を考えることで、**マジョリティ側が世界を変えていけるといいんじゃないかな**と思います。そしてそれはいつか、ただ歩きやすい、とかものが見やすい、ということを超えて、**目が不自由な人が損をしないような制度作り**につながったり、マース・ヴィンヤード島のように**マイノリティの方々の人権が認められる世界**を作っていくのではないかと考えています。

来週からフィールドワークの取り組みが始まっていきます。自分たちの特権性を受け止めながら、**どんな工夫があれば、「だれもが自分らしい生活ができ、幸せに暮らすこと」を実現できるか**を考えてほしいと思います。

+ 来週の予定

日付	行事	持ち物や連絡
1/29(月)	通常時間割(50分×5)	
1/30(火)	通常時間割(45分×4)	時程B 昼食無し
1/31(水)	通常時間割(50分×6)	
2/1(木)	特別時間割(45分×5)	変則時程B 部活あり
2/2(金)	特別時間割(50分×6)	